



右田ヶ岳

平成27年度

6月号

防府市立右田小学校

校長 岩永 光二

学校教育目標 強い心をもった子どもを育てる
～感動とつながりのある活動を通して～

4月21日(火)に実施(6年生)した全国学力・学習状況調査について、正式な結果はまだ出ていませんが、学校で採点して明らかになったことをお知らせします。(国語について)

○国語 国語A(主として知識)では、基本的な「言語についての知識・理解・技能」は、おおむね良好でした。しかし、「話す・聞く・読む能力」に、課題が見られました。

読解力や語彙力を身につける学習に、今後も力を入れていきたいと考えています。

国語B(主として活用)全国的にどの小学校でも、活用力に課題があります。本校でも同じ傾向があり、長文を読んで、条件に合わせて、字数制限がある文章を書くことが課題となっています。課題解決のため、【①授業だけでなく日頃から読書に親しめるようにする。②本や文を読んで、思ったこと・考えたことを、自分の言葉でまとめる。③条件に合わせて書く力が身につくように系統的に指導する。】この点について力を注いでいきたいと考えています。

1 友人を家に招く。
2 自分の信念をつらぬく。
1 シャワーをあびる。
2 鳥の羽を観察する。
等の漢字の読み書きは良くできていました。

特に、「筆者は、自分の思いや考えを根拠付けるためにある言葉を引用しています。それは、どの言葉ですか。最も適切な言葉のはじめの五文字を書きぬきましょう。」の問いでは、文章から筆者の考えを理解することや「引用」等、言葉の理解が難しかったようです。(県の傾向も同様)

国語B問題を、例として1問載せます。(全9問)テストの問題としては長文ですので、読むのにも時間がかかります。そして、条件に合わせて書くことと、字数制限もあるので子どもにとってはかなり難しい問題となっています。

3

六年生の山田さんの学級では、「一休さんとち話」という本を読んで、紙しばいを作り、一年生に読み聞かせをすることにしました。そこで、山田さんのグループでは、その本の中から次の「びょうぶのお話」を選び、場面の様子を「四枚の絵」に分けてかきました。あとの問いに答えましょう。

【四枚の絵】

【びょうぶのお話】

※1「とんち」……その場ですぐに出る謎のこと。
※2「びょうぶ」……部屋の中に立てて、かさや仕切りなどにするもの。



1 一休さんは、それを聞くと、「かしこまりました。」と言って、さっと立ち上がりました。そして、「では、とらをしばりあげるためのなわを貸してください。」と言いました。とらのお母さんは、なわを受け取り、広間のすみに下がりました。一休さんは、「これで、とらをしばりあげます。このさき、家来の方々は、びょうぶの裏に回ってください。とらが飛びかかるといけませんから……。」とさきどおしに、お母さんに話しかけました。一休さんが、何を始めるのかと思いましたが、とらあえすびょうぶの裏に行きました。そして、にやにや笑いながら、様子を見ていました。



2 一休さんは、はちまきをしめ、たすきをかけて身じたくを整え、いよいよなわを手を持ち、びょうぶの前に進み出ました。それから、足をふんばり、びょうぶの前で構えて言いました。「やい、とらめ。このさき、お母さんの言いつけでお前をしばりあげます。さあ、出て来い。勝負だ。」一休さんは、大まじめです。とらは、もちろん出て来ません。「さては、おそれなしたか。とらめ、出て来ないな。」そう言ってから、



3 一休さんは、はちまきをしめ、たすきをかけて身じたくを整え、いよいよなわを手を持ち、びょうぶの前に進み出ました。それから、足をふんばり、びょうぶの前で構えて言いました。「やい、とらめ。このさき、お母さんの言いつけでお前をしばりあげます。さあ、出て来い。勝負だ。」一休さんは、大まじめです。とらは、もちろん出て来ません。「さては、おそれなしたか。とらめ、出て来ないな。」そう言ってから、



4 一休さんは、はちまきをしめ、たすきをかけて身じたくを整え、いよいよなわを手を持ち、びょうぶの前に進み出ました。それから、足をふんばり、びょうぶの前で構えて言いました。「やい、とらめ。このさき、お母さんの言いつけでお前をしばりあげます。さあ、出て来い。勝負だ。」一休さんは、大まじめです。とらは、もちろん出て来ません。「さては、おそれなしたか。とらめ、出て来ないな。」そう言ってから、

【問い】 「もうよい。わしの負けじゃ。」を、あなたならどのように声に出して読みますか。次の条件に合わせて書きましょう。

○(条件) 声に出して読むときにくふうすることを書くこと。くふうすることとしては、例えば、声の大きさや高さ、読む速さなどがある。

○なぜそのように読むのかという理由を書くこと。理由には、あなたが想像したとらさまの気持ちを取り上げること。

○四十字以上、八十字以内にまとめて書くこと。

6/5 自転車講習会

PTA生活部の主催で自転車講習会が実施され、手信号や乗り方、そして、自転車の点検の仕方を丁寧に教えていただきました。また、あいにくの雨で体育館での実施でしたが、実際に実技指導もしていただきました。指導は、交通安全協会指導員の方や福田さんにお世話になりました。大変ありがとうございました。



自転車は便利ですが、こけたりぶつかったりすると歩いているときよりも衝撃が大きいです。怪我をしない！させない！ように、交通ルールをしっかりと守り、安全点検をして乗りましょう！



8/5の午前中に世界スカウトジャンボリーの交流活動で、右田小学校にも世界各国からたくさんのスカウトの子どもたちが来校します。国際理解について学習している5年生が、「防府踊りを世界に伝えよう！」と猛練習に励んでいます。踊りの先生にも来て指導していただきました。ありがとうございました。



週に1時間、5・6年生が、「①外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める。②積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。③外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。」という目標に向けて、担任とマリア先生(ALT)で外国語活動を実施しています。8/5世界ジャンボリーの交流活動が楽しみです。



6月10日(水)の一斉下校で、「4月の靴箱を見るとバラバラでした。でも最近、靴箱の靴のかかどが揃ってきています。毎日見ていると、じわーっと感動しています。」というお話をしました。その翌日11日(木)、靴箱を見に行くと、雨にもかかわらず、なんと全員きれいに、くつのかかどが揃っているではありませんか。「長靴が多く難しかったろうに。」と、揃える姿を想像しながら、今度は、大きく感動させられました。右田小学校の子どもたちは、素直な心と実行できる心の強さを身につけていると感じた瞬間でした。そういえば、学級だよりで、こんな詩を紹介していました。「何のために」と考えることは大切なことですね。かかと揃えが「当たり前」になる日がきそうな気がします。“感動させてくれてありがとう！”

「はきものをそろえる」
はきものをそろえると心もそろう
心がそろうとはきものもそろう
ぬぐどきにそろえておくと
はくどきに心がみだれない
だれかがみだしておいたら
だまってそろえておいてあげよう
そうすればきっと
世界中のひとの心もそろうでしょう

来月は、1学期のまとめをする7月です！

早いもので、後一月で1学期が終わろうとしています。そこで、6年生が4月に書いた作文を紹介したいと思います。

『～六年生二日目は、入学式があって高学年だけで一年生をむかえたので、きんちょうしたけれど一年生を無事むかえられたのでよかったです。三日目の登校は、一年生が二人入りました。その子たちは、とてもきんちょうしていたけれど、わたしが「歩くスピードは、速い？」と聞いたり、「学校は楽しみ？」と話しかけたりすると安心してくれたので、これが六年生の第一歩だと思いました。わたしは、正直言うと「六年生は、大変だし面どうだなあ。」と書いていたけれどいざとなると「六年生とは、中学生に向けての準備。」ということが分かりました。また、新しく校舎がかわるとーしょに全校が生まれ変わるようにしたいです。』

最高学年の6年生になった責任感と自覚が感じられる文章です。来月終業式を迎えます。充実した1学期にしてほしいと思っています。そのためにも、もう一度4月を思い出してみることも大切なことです。

2学期からは、新しい校舎で「新右田小学校」のスタートです。今まで以上に素晴らしい右田小学校を目指していければと思っています。そのためにも、よい1学期となるように、全校で取り組んでいきます。